

地質標本館見学者の声(小・中学生の礼状アンケート等から)

瀧澤 朝代¹⁾

まえがき

開館10周年を迎えた地質標本館には、開館当時とは大分入館者の階層が変わり、小学生の団体が多くなっています。見学だけではなく筆記用具を持ち、グループ別に勉強をしています。先生方には当館の展示物などを理解していただき、子供達の見学指導をお願いしています。

私達職員も積極的に説明をしてきました。

また、大学では近くの筑波大学、図書館情報大学、茨城大学、都内からは東京大学、お茶の水女子大学、早稲田大学、上智大学、日本大学林学科等各大学の学生が毎年見学に来館しています。

はじめに、小学生の数多い感想文とお礼文の中から、2. 3文章を抜粋しながら紹介します。

1) 茨城県石岡市杉並小学校2年生担任の先生

2年生ながら素晴らしさがとらえられたようで、学校に帰りましてもしばらくは石の話ができてきました。同封の作文はお礼のつもりです。

“ちしつひょう本かんへいったこと”まきしまめいこ
いちばんふしぎだったのは、はっぱや魚のはねの石でした。それに火山がぼくはつすると、火山ばいで、れっしゃもおれなくなるし、石をつくったりもするので火山はこわいだけじゃなく、いろいろできることが分かりました。

2) お礼の言葉 館長様 乙戸小学校6年10班

これから私達は理科で地層を学習します。ですから地質標本館の内容はとても勉強になり、参考になりました。班の人達は“オイルシエール”この言葉が一番興味を持ちました。帰ってから早速調べて報告しようと思いました。その他 褶曲地層・化石・それに宝石の原石など、私達は初めて見るものばかりで、グループの中から歓声が何回もできました。不思議な世界をのぞいたような気持ちでした。短い時間でしたのでグループの人達も今度ゆっくり家族で来ましようとして話し合いました。本当に

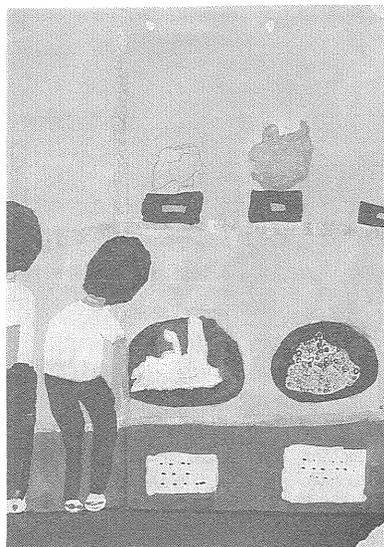


写真1 石岡市杉並小学校2年生 小貫 進

有難うございました。

3) 東京都大田区 清明学園6年担任の先生

校外学習のH. R.のとき、地質標本館での説明に感動を受けた生徒がお礼をしたいと発言したところ、作文やお礼の言葉を送ることになりました。来年もまたお邪魔することになると思います。有難うございました。

清明学園6年 岩国多美子

一番最初の目的地は地質標本館でした。緑の中に建っている標本館はとても綺麗でした。校外学習のしおりの中で一番行ってみたかった所です。職員の方が色々親切に教えて下さって、今までわからなかったことが、一ぺんにわかってきました。たった1つの石でも私達の知らない、何百年、何千年も前からあった石。知らない、昔、昔のことを化石や地層が教えてくれています。私は、地質標本館に来て、地球人として今、壊されつつあるこの地球を、護っていかねければならないのだということを考えさせられました。P. S.最後の最後まで色々と言

1) TAKIZAWA Asayo, 元地質標本館管理専門職: 〒201 東京都狛江市西和泉町2丁目13番403号



写真2 アメリカンスクールの生徒に説明する山田元館長

明案内してくれて、本当にどうも有難うございました。

東京都武蔵中学校2年生

今までは岩石などにはあまり興味がなかったが、今回実地で見学したことは良い経験となったと思われる。岩石のこともいずれ調べてみたい。地質標本館は実に興味深いものであった。現在までの地球の動きから、現在の我々の生活に密接した、鉱物資源や地質現象の問題についてふれ、海洋資源やプレートテクトニクス説など、これからの地学の問題も取り上げていて素晴らしい構成であったと言える。また、16mmの火山の映画を見たが、日本でも噴火の恐れのある火山はたくさんある。火山噴火などと無縁の生活をしている我々は、日本が火山列島であることを忘れていて、常に心してかからねばと思った。

東京都武蔵中学校2年生

地質標本館では、日本列島や火山の生い立ちが模型で示されていて、目で見ることができ、とても分かりやすかった。なかでも地熱発電所に興味を持った。今地球環境や資源の問題がいたるところで取り上げられている。日本は火山国でその火山のエネルギーを利用することができれば、資源の節約にもなり、公害のないエネルギーを多量につくり出すことができると思う。これらのことについても、筑波研究学園都市で研究していることを知り、とても素晴らしいことだと思った。地震や地熱発電所など、我々の身の周りは意外に地学が結びついていることを再発見できてよかった。

今まで紹介してきましたのは、子供達の可愛いお礼文、感想文ですが、入館者に配付したアンケート及び、新人研修から寄せられた批判等を紹介いたします。

1) 地質標本館を知った理由について

1番多かったきっかけは、知人からきいたということです。2番目は、前に来館したことがあるということです。人からの情報や、再度の来館は、仕事に携わる私達

には嬉しいことです。

2) 当館についての意見を聞かせてください。という項目に対する回答は、次のとおりです。

イ。とても1日でまわりきるには、大変な内容(量)です。私のような素人から専門家の人まで楽しめ、ここに来てよかったです。

ロ。標本展示をもうすこし分かりやすく。難しい字にはカナを。小さなものには矢印を。位置、向きを見やすく。最近、系統だって見られる所が少なく、この地質標本館を大変有難く思っております。

ハ。全くの素人でも楽しめるようビジュアル的な工夫が、いろいろされているようだ。児童や婦人がもう少し興味を持てるよう工夫するとよいのではないか？

(このご意見については、1990年3月に「地質標本館見学の手引き」を印刷し、見学者に貸出をしたり、小・中学校の先生には差し上げて、見学指導に利用していただいています)。

次は地質調査所に新採用として入所した研究者の意見です。

☆) コウ岩の展示が多いように感じた。☆) 鉱物標本の展示のところで、鉱物名だけではなくて、鉱物の化学成分標本があった方がよいのではないか。☆) プレートテクトニクスの展示の所で、日本列島の地下のプレートの動きと、熱の移動方向が明瞭に区別されておらず、理解しにくい。☆) 地質年表の化石の展示は、球形のプラスチックケースに光があたって、観察しにくい。☆) 海洋の音波探査に関する展示は、説明が不十分ではないか。☆) 鉱物の展示の所で鉱物種類の展示だけでなく、共生関係が分かる展示が必要ではないか。☆) 鉱脈の産状スケッチがあった方がよいと思う。

☆) 化石の分類標本の中で、特に示準化石、示相化石として重要なものは、標示すべきではないか。☆) 地球の内部構造の展示は、1階中央に置く程面白くない。☆) 全体的に説明不足である。専門用語がないものがある。(例: コア、∴パンフレットの中に用語の説明を入れる)。☆) パンフレットが簡単過ぎる(英文の方が良い)。☆) 生活との関係のあるタイトルなのに、展示にいかされていない。☆) テープの説明が長すぎるものが多い。☆) 化石の展示で、生息環境が分かるような展示の工夫が必要だ。☆) マントル深部の岩石が絶対に展示に必要である。

以上いろいろなご意見等をいただき、地質標本館展示棟運営委員会にも報告してきました。改修できるものは出来るだけ手直しをし、また多勢のお客様に満足いただけるよう、未だ当館にはない“友の会”をつくり、説明案内ができることを願っております。

<受付: 1990年5月1日>

地質ニュース 431号